

福井県の調査—福井県学習の実践—

福井県福井市光陽中学校 山口信介

1 はじめに

「先生、東京の大学生の人は、福井県は印象が薄いと言っていましたよ。福井県のことをもっと知ってほしいです」

本校の3年生が6月に修学旅行で東京へ行ったときの見学地でのインタビュー活動後の生徒の感想です。

東京での調査活動（総合的な学習）は生徒たちにもふるさと福井県のことを考えさせるよい機会となったようです。

本校でも1年生の地理で「地域の規模に応じた調査」の学習として福井県を取り上げています。そこで昨年度の1年生の地理学習でのふるさと福井県の学習の取り組みを紹介したいと思います。

2 福井県で何を学ばせるか

「地域の規模に応じた調査」学習の目標は「地域的特色をとらえる視点や方法の習得」ですが、自分の都道府県を学習するとき、「学び方」だけを学習のねらいとするのはどうでしょうか。生徒たちには、郷土の特色（課題）を理解して、郷土への愛着を深めてほしいですし、郷土の将来についても考え、話し合う時間を地理の学習でも確保したいと思いました。そこで、二つのねらいをもって学習を計画しました。

- ①さまざまな視点から福井県の特徴をまとめるという学び方の基礎・基本を身につけさせたい。
- ②ふるさと福井の発展策を考え、自分なりの提言にまとめ上げるためにコミュニケーション活動を活用し、知識を活用することができる段階に育てたい。

3 実践例

この單元では、確かな社会認識を育て、コミュニケーション活動を大切に授業にするために、「現状分析（意欲づけ）→課題の設定→コミュニ

ケーション活動→提言・創造」の段階をふんで授業を構成することにしました（10時間配当）。課題の設定では、問題解決場面を設定して生徒の主体的学習を促し、ランキングなどの活動を取り入れ、生徒に多角的な比較、思考の深まりを促したいと計画しました。

【現状分析：5時間】

まず、単元の最初に、福井県の調査に意欲をもたせるために、本校に最近赴任されたALTの先生に福井のことを紹介しようという投げかけから、福井県の特徴の調べ方を考えさせました。さまざまな視点

- ①自然
- ②第1次産業
- ③第2次産業
- ④第3次産業、他地域との結びつき
- ⑤人口、生活・文化

での調査を資料の読み取り方法を一齐指導で指導しながら学ばせました。この段階では、福井県を他県と比較して調べたり、視点ごとに県内の地域差を調べ福井県の特徴として白地図にまとめていきました。多様な調べ方を効率よく行うために、帝国書院『県学習用 福井県を調べよう』を利用しました。第1次産業の特徴を調べるときには、p.5の「あなたもチャレンジ」をp.11の白地図に記入させ、特産物から県内の市町村の第1次産業の特徴をつかませました。



帝国書院『県学習用 福井県を調べよう』p.2、4より

その他、県庁の方からわけていただいた県勢要覧を利用したり、新聞記事なども利用してさまざまな視点での福井県の特徴を白地図を利用して分布図の形でまとめていきました。

例えば、福井県の第1次産業の特産物の分布図が完成すると生徒は県内の奥越や福井平野が稲作がさかんであることに気づいていきます。ただ、その時に

なぜそのような地域でさかんなのか

という理由や背景の検討も意識して行わせました。そのたびに、生徒は自分が作成していった視点ごとの分布図を見比べながらその理由を考えていきました。そのような活動を通して、

- ・産業と自然（農業と地形や気候）の関係
 - ・産業と交通（工場建設と高速道路）の関係
 - ・産業と人口（大型商業施設の立地場所）の関係
- などに気づいていくようになりました。

このような個人の学習を確認するために、調査終了後、班ごとに一つの視点を分担させ、それぞれの視点ごとに見つけた福井県の特徴や調べた感想を発表させ、視点ごとの福井県の特徴をまとめました。

【課題の設定：1時間】

【コミュニケーション：3時間】

この段階では、現状分析の段階で視点ごとに福井県の特徴を理解した生徒に学習した知識の再構成を行わせ、福井県の特徴の理解を深めさせることがねらいです。そのために県内を4地域（奥越、福井平野、丹南、嶺南）に分け、各地域ごとの特徴を考えさせました。地域ごとの特徴をまとめる方法としてそれぞれの地域的特色を生かした産業の発展策（「福井県の各地域を豊かにする産業プランを考えよう」）を考えさせることにしました。4地域でどのような産業を特に振興すべきか、優先すべき産業のランキングを考えさせ、これまでにつかんだ福井県の知識を合理的な意志決定で活用できるようコミュニケーション活動を活用していきました。

<4地域：福井県の地域区分>★特産品など

a 奥越：勝山市、大野市、和泉村

★米、乳牛、木材、スキー場

b 福井 平野：福井市、美山町、吉田郡の2町1村、坂井郡の6町

★米、かに、畜産、繊維、商業、観光

c 丹南：丹生郡の4町2村、鯖江市、武生市、今立郡の2町、南条郡の2町1村

★米、めがね枠、電気機械、伝統工業

d 嶺南：敦賀市、三方郡の2町、小浜市、遠敷郡の2町、大飯郡の2町

★漁業、原子力発電、伝統工業、観光



帝国書院『県学習用 福井県を調べよう』p.3より

これらの4地域は地形、気候、産業、歴史伝統等で異なる特色をもっています。これらの県内の地域差を感じ取らせ、内側からみた地域の特徴を見つけさせ、その特色を生かす発展プランを生徒らしい自由な発想をくわえて班ごとに考えさせることにしました。この班は、現状分析のときの班活動と同じ班で行いました。

どの班のプランも各地域の特徴をとらえたものになりました。ただ、「豊かな」地域にするために各班のプランには大きな違いはなかったのですが、コミュニケーション活動の締めくくりの討論会で班ごとの意見発表を行いました。その後の質疑応答では四つの地域の特徴の違いが確かな事実から考えられているか確認させ、互いのプランの比較検討を行いました。

地域	おもなプラン題名
a	・自然がいっぱい、おいしいお米の奥越 ・スキーで元気な奥越

b	・観光客が楽しめる福井、坂井 ・新都心はここだ福井平野
c	・温故知新の工業の街、丹南 ・世界一のめがねの地域丹南
d	・魚介類の宝庫、嶺南 ・電気と化学で発展、嶺南

【提言・創造：1時間】

福井県を紹介したり、発展策を考える活動を通して生徒はさまざまな福井県の特徴を理解していきました。それらの学習のまとめとして、福井県を「豊かな」県にするための提言をまとめさせて、この学習を締めくくりました。前時の討論会をふまえて「これからの福井県」を考えさせ、明日の福井県を支える者としての自覚を高めたいと考えたからです。

生徒の提言書のおもな意見を紹介します

- ・福井もうじき都心
- ・国際化福井

東京のような大都市のある県を参考にして、他県と比べて足りない、遅れているものを向上させたいと考える意見がありました。ただ、一番多かったのは、

- ・豊かな自然を生かす

のような福井が東京や大阪に勝っている点をさらに大切にしていって大都市にはない「豊かさ」を守っていきたいという意見が多かったです。さらに、今回の学習を生かした

- ・めがねなら負けない

のような福井県が他県に負けない、誇りに思えるものを作るべきだ（もっとほしい）という意見がありました。

4 まとめ

今回のふるさと福井県の指導実践を振り返ってみるといくつか気づくことができました。

①分布図作りの効果

当たり前のことですが、描いて覚えるという点があります。さらに市町村単位で統計資料はまとめられているので、分布図を作ることで県内の地域差が見えてきて、小さな県ですが、さまざまな特色をもった地域の集まりであることを生徒も実感をもって理解できたように思います。

②ふるさとの発展構想を考える

授業時数は多くかかることになったのですが、次の2点で効果があったと思います。まず第一に都道府県の発展について現実的な方法を考える視点を育てたということです。

- ・ディズニーランドのような大型娯楽施設を作ればいい。
- ・大きな工場を誘致すればいいんだ。
- ・駅前にデパートをたくさん造ればにぎやかになる。

などと夢の段階で止まってしまう生徒がいました。でも、学習中のコミュニケーション活動を通して、一つの産業がさかんになるための必要な条件や費用の負担の問題など、現実化するために考えなくてはいけないことにも気づくようになりました。

そして第二に現実にも目を向けながらも、ふるさと福井を思う気持ちが確認され、

- ・自分たちの手でふるさとを発展させたい。
- ・福井のよさを大切にしたい。

という郷土への愛情を育てることができたからです。

ただ、今回の実践では「豊かさ」というあいまいな概念をもとに授業を進めたところがあり、生徒の意見交換が食い違ったりした点もあるので、身近な都道府県の学習では資料も多く手に入るので、厳選した資料と数値をもとに明確な学習課題を設定することが大切であることもわかりました。